

文献	対象	デザイン・介入	評価項目	脱落例数	結果	有害事象	エビデンスレベル	備考
① 報告者 ② 西暦年 ③ 文献番号 ④ 実施場所(国)	① 総数 ② 年齢 ③ エントリー時における重症度 ④ その他ベースラインのデータ	① RCT or 非RCT(対象群10以上、比較群10以上、計20例以上のもの) ② クロスオーバー or 同時対照(parallel) or 記録対照 ③ (研究により) 前向き or 後向き ④ 各群の例数 ⑤ 実際の方法(薬剤の名称・量・投与方法) ⑥ 比較対照の内容(プラセボの名称・量・投与方法など) ⑦ 追跡期間(導入期間+試験期間)	① 主要アウトカム ② 副次的アウトカム	可及的に詳細を記載 わからない場合は“不明”と記載	報告者の結論をそのまま記載	可及的に詳細を記載(結論に影響するもの、報告者のサマリーを参照) わからない場合は“不明”と記載	評価法の見方を参照	① ITTの有無 ② ランダム化の評価 ③ 盲検の評価 ④ 併用療法
① Morison et al, Br J Dermatol 98:25-30 ② 1978 ③ 1	① 15例 ② 9歳~63歳 ③ 重症	① RCTランダム化比較試験、左右比較試験、 ② パラレル、 ③ 前向き、 ④ 全身PUVA群5例、半身PUVA群5例、半身PUVA、半身UVB群5例、 ⑤ ⑥ 全身PUVA群: PUVA部 対 遮光部、半身PUVA群: 左右比較、半身PUVA、半身UVB群: 左右比較、 ⑦ ⑧ 全身PUVA群: 99%の皮疹の消失まで、半身PUVA群、半身PUVA、半身UVB群: PUVA側の95%の皮疹の消失まで	① 終了時コントロール部の皮疹の状態	なし	全身PUVA群: 遮光部の湿疹の悪化、半身PUVA群: 遮光側は不変、半身PUVA、半身UVB群: UVB側の4例は悪化、1例は不変		2b	① ITTなし
① Morison et al, Br J Dermatol 98:25-30 ② 1978 ③ 1 study1	① 17例 ② 20歳~42歳 ③	① RCTランダム化比較試験、左右比較試験、 ② パラレル、 ③ 前向き、 ⑤ ⑥ 左右比較: 片側UVB、片側可視光、週3回照射、 ⑦ 8週間、 ⑧ 皮疹の消失	① 皮疹スコア	11例(1例:burn、10例:元々の合併症、個人的理由)	皮疹スコア1.5よりUVB側は0.7へ減少、可視光側は1.4	熱傷2例	2	① ITTなし
① Morison et al, Br J Dermatol 98:25-30 ② 1978 ③ 1 study2	① 25例 ② 16歳~59歳 ③	① RCTランダム化比較試験、左右比較試験、 ② パラレル、 ③ 前向き、 ⑤ ⑥ 左右比較: 片側UVB:0.8MED、片側UVB:0.4MED、週3回照射、 ⑦ 8週間、 ⑧ 皮疹の消失	① 皮疹スコア	6例(1例皮疹のコントロール不良、1例UVB burn、1例効果無し、3例個人的理由)	0.8MED群16/25例で改善、0.4MED群15/25例で改善(有意差無し)	詳細な記載無し	1	① ITTなし
① Yoshiike et al, J Dermatol Sci 5:50-53 ② 1993 ③ 3 ④ 日本	① 114例(入院48例、外来66例) ② 13歳~ ③ 重症	① 非RCT、 ② パラレル、 ③ 前向き、 ⑤ 入院: 連日外用PUVA、外来: 週一回PUVA、	① 皮疹、掻痒スコア	記載無し	入院: 94%で改善、 外来: 80%で改善	記載無し	4	① ITTなし
① Der-Petrossian et al, Br J Dermatol 142:39-43 ② 2000 ③ 5 ④	① 12例 ② 平均27歳 ③ 重症	① RCTランダム化比較試験、左右比較試験、single blind ② パラレル、 ③ 前向き、 ⑤ ⑥ 左右比較: 片側 narrow band UVB、片側 bath PUVA、週3回照射、 ⑦ 6週間、 ⑧ 皮疹の消失もしくは6週間	① 皮疹、掻痒、睡眠障害スコア	2例(1例悪化、bath-PUVA反応不良)	narrow band UVB: 64.1%、片側 bath PUVA: 65.7%の改善	深刻な副作用なし	1	① ITTなし
① Reynolds et al, Lancet 357:2012-2016 ② 2001 ③ 6 ④ UK	① 73例 ② 16~65歳 ③ 中~重症	① RCTランダム化比較試験、2重盲検、 ② パラレル、 ③ 前向き、 ④ narrow-band UVB: 26例、UVA: 24例、可視光: 23例、 ⑤ ⑥ 各光線療法を週2回照射、 ⑦ 12週間、 ⑧ 皮疹の改善、範囲の縮小	① 皮疹、掻痒、睡眠障害スコア	26例(治療前4例、熱傷2例、悪化4例、治療拒否3例、移動2例、受診不可5例、受診せず6例)	UVBがUVAに比較して5ポイント、UVB、UVAがプラセボに比較してそれぞれ9.4、4.4ポイントの改善	熱傷2例、悪化4例	2	① ITTなし
① Krutmann et al, J Am Acad Dermatol 38:589-593 ② 1998 ③ 7 ④	① 53例 ② 26歳 ③ 重症	① RCTランダム化比較試験、 ② パラレル、 ③ 前向き、 ④ High-dose UVA1: 20例、fluocortolone 0.5%: 17例、UVA-UVB: 16例 ⑤ ⑥ 各光線療法を連日照射、 ⑦ 10日間、 ⑧	① 皮疹、掻痒、睡眠障害スコア	なし	UVA1: 56から26へ、 fluocortolone: 60から35へ、 UVA-UVB: 60から42へ改善	なし	2	① ITT(脱落無し)
① Dittmar et al, Hautarzt 52:423-427 ② 2001 ③ 12 ④		① RCTランダム化比較試験、 ② パラレル、 ③ 前向き、 ④ High-dose UVA1 vs Medium dose vs Low dose、 ⑤ ⑥ 各光線療法を連日照射、 ⑦ 10日間、	① 皮疹スコア		High-doseとMedium doseでスコアの改善	なし	2	

文献	対象	デザイン・介入	評価項目	脱落例数	結果	有害事象	エビデンスレベル	備考
① 報告者 ② 西暦年 ③ 文献番号 ④ 実施場所(国)	① 総数 ② 年齢 ③ エントリー時における重症度 ④ その他ベースラインのデータ	① RCT or 非RCT(対象群 10 例以上、比較群 10 例以上、計 20 例以上のもの) ② クロスオーバー or 同時対照(parallel) or 記録対照 ③ (研究により) 前向き or 後向き ④ 各群の例数 ⑤ 実際の方法(薬剤の名称・量・投与方法) ⑥ 比較対照の内容(プラセボの名称・量・投与方法など) ⑦ 追跡期間(導入期間+試験期間)	① 主要アウトカム ② 副次的アウトカム	可及的に詳細を記載 わからない場合は“不明”と記載	報告者の結論をそのまま記載	可及的に詳細を記載(結論に影響するもの、報告者のサマリーを参照) わからない場合は“不明”と記載	評価法の見方を参照	① ITTの有無 ② ランダム化の評価 ③ 盲検化の評価 ④ 併用療法
① Tzaneva et al, J Am Acad Dermatol 45:503-507 ② 2001 ③ 13 ④	① 10例 ② 平均30歳 ③ 重症	① RCTランダム化比較試験、左右比較試験、 ② パラレル、 ③ 前向き、 ⑤⑥左右比較:片側:high dose、片側:50%、週5回照射、 ⑦ 3週間、	① 皮疹スコア	なし	high dose: 100%→ 34.7%、medium dose: 100%→28.2%、両者間に有意差なし	痛みのない紅斑、軽度な熱感(詳細な記載なし)	2	① ITT (脱落無し)
① Valkova et al, J Dermatolog Treat 15(4):239- 44 ② 2004 ③ 8 ④ Bulgaria	① 31例 ② 8~45歳平均19歳 ③ 中~重症	① RCTランダム化比較試験 ② パラレル ③ 前向き ④ I群:UVA/UVB 17例、II群:UVA/UVB+ステロイド外用 14 例 ⑤ 週5回照射、1日2回ステロイド外用 ⑥⑦-	① 皮疹スコア、 痒ようスコア、 睡眠障害	記載なし	UVA/UVB混合照射単独群、 UVA/UVB混合照射+ステロイ ド外用の併用群では両者とも 効果はあり、寛解期間に差は ないが、併用群の方に効果が 早く現れ、またUVBの照射量 が減少した。	痛みのある紅斑9例(I群5例、II群4 例)、熱傷7例(I群5例、II群2例)、 乾燥15例(I群10例、II群5例)、不 快感3例(II群3例)、激しい汗7例(I 群3例、II群4例)	1	① ITTなし
① Majoie et al, AM Acad Dermatol 60(1):77-84 ② 2009 ③ 10 ④ Netherlands	① 13例 ② 20~56歳平均25歳 ③	① RCTランダム化比較試験 左右比較試験 ② パラレル ③ 前向き ⑤⑥左右比較:片側 narrow-band UVB 片側 中等量 UVA1、週3回照射 ⑦ 8週間	① 皮疹スコア、 痒ようスコア、	なし	narrow-band UVB 中等量 UVA1ともに著名改善 narrow- band UVB: 皮疹スコア18→ 10、VAS7→1.8 中 等量UVA1: 皮疹スコア19→ 12、VAS7→4.1	記載なし	2	① ITTなし
① Gmabichler et al, Br J Dermatol:160 652-658 ② 2008 ③ 11 ④ Germany	① 47例 ② 18~83歳平均37.5歳 ③	① RCTランダム化比較試験 クロスオーバー ② パラレル ③ 前向き ⑤⑥クロスオーバー 2週間wash-outした後narrow-band UVBまたはUVA1を6週間、週3回照射その後wash-out期間を 少なくとも8週間おいて、皮疹スコアが50%以上増悪したも の、または皮疹スコアが20点以上のものに対してnarrow- band UVBとUVA1を入れ替えて再度6週間、週3回照射 ⑦ 22週間	① 皮疹スコア、 痒ようスコア、 QOLスコア	23例(3例移 転、8例無効の ため拒否、3例 内服治療が必 要、8例wash- out期間に次の 照射を始めるに 際し条件を満た さない、1例手 術施行)	UVA1療法とnarrow-band UVB療法とも同等に有効	軽度の紅斑 4例(UVA1 1例 narrow-band UVB3例)	1	① ITTなし
① Nisticò et al, Photomed Laser Surg 26(1):14-8 ② 2008 ③ 14 ④ Italy	① 18例 ② 6~70歳 ③	① 非RCT ③ 前向き ⑤ 1週間に1回Excimer Lightを照射(照射量はMEDの1/2~1 からスタートし皮膚の状態を見ながら250-500mJ/cm2ずつ 上げていく) ⑦ 16週間	皮疹スコア	なし	有効 皮疹スコア12.3→4.6	紅斑3/18、痒み4/18、火傷2/18	4	① ITTなし
① Stern et al, Arch Dermatol 134:1582-1585 ② 1998 ③ 16 ④		① メタアナリシス、 ② 記録対照、 ③ 後ろ向き、 ④、 ⑤⑥High dose:200回以上もしくは2000J以上、Low dose:100回以下もしくは1000J以下、 ⑦	SCC発生率		High dose群がLow dose群に 比べ14倍高い		1	
① Lindelof et al, Lancet 338:91-93 ② 1991 ③ 17 ④ Sweden	① 4953例 ② 平均45.3歳 ③	① 非RCT、 ② 記録対照、 ③ 前向き、 ④、 ⑤ 用量依存性SCCリスクの測定、 ⑦ 男性:平均6.9年、女性:7.2年	SCC発生率		男性200回以上の照射群にお けるSCCのリスクは一般に比 較して約30倍高い		4	
① Stern et al, Cancer 73:2759-2764 ② 1994 ③ 18 ④	① 1380例 ② ③ ④ 乾癬患者	① 非RCT、 ② 記録対照、 ③ 前向き、 ④、 ⑤	SCC発生率		High dose PUVA群の一般に 比較したmorbidity ratioは83		4	

